

この広報紙は町内自治会を通じ市内の全世帯にもれなく配布されております。皆さんのお宅に届かないときは部落の区長または市広報係までお申し出ください。

世帯と人口

(40.12.1日現在)	
面積	30.55平方町
人口総数	54,597人
男	27,967人
女	26,630人
世帯数	11,994世帯

迎春



1966

明けましておめでとうございます。市民のみなさん、新年おめでとございます。昭和41年のすがすがしいお正月をお元気で迎えにいられたことでしょうか。昭和元年に生まれた方は不惑をこえられて、人生でもっとも円熟する年代に入り、終戦の昭和20年に生まれた方は、成人の日を迎え

市民のみなさん、新年おめでとございます。昭和41年のすがすがしいお正月をお元気で迎えにいられたことでしょうか。昭和元年に生まれた方は不惑をこえられて、人生でもっとも円熟する年代に入り、終戦の昭和20年に生まれた方は、成人の日を迎え

す。6日は小寒で寒さもいよいよきびしくなります。▽……15日は「成人の日」終戦の混乱期に生を受け、苦しい戦後を生きて生い育った若人たちに栄光が輝くよう心からお祝いいたします。▽……20日は大寒、一年中でいちばん寒いといわれる日です。どうか、かせなどひかないよう十分ご注意ください。

明けましておめでとうございます。市民の皆さんには、つがなく昭和41年の新春を迎えられたこと存じ、心からお慶び申し上げます。経済不況の荒波が打ち寄せた昨年は、誠に大変な一年でございました。ベトナムの紛争を中心とする世界の動向も、日韓問題を頂点としたわが国の政情も、ともにめまぐるしいものでありましたが、それにもまして不況ムードに満ちた日本経済の今後の動きこそ私達の最も関心の高い問題でございます。

さて、当富士市政にとりましては、昭和40年は、将来の歴史に残るような意義深い一年でございました。私は、市長就任以来、最後の第4年目に当たりますので従来にもまして渾身の努力を市政の各般に傾注してまいりました。幸い、市議会をはじめ市民各位の力強いご協力により、各種の重要

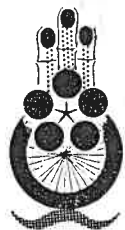


富士市長 漆畑 五 六

ことしこそ総上げの年に

事業は、その殆どが完成または、解決の段階となり得ましたことに対し衷心より感謝申し上げる次第でございます。しかしながら新しい昭和41年こそ富士市政は重大な転機にたつと申し上げねばならないと存じます。東駿河湾工業整備特別地域の中枢としての田子浦港は整備完成の域に達し、富士駅の改築と合せて実施した南口線橋は昨年8月完成して直ちに使用を開始し、東名高速自動車道路は、鋭音も高く着工し、去る昭和39年以来、8年にわたって交渉を続けた国鉄身延線西回り付替工事は、関係者の深い御理解により既に用地買収交渉も成立し、本年は愈々工事着手の状況となり山静の交通経済の要衝としての富士市はかかる画期的な産業基盤整備工事の進捗によりその飛躍発表は誠に期待して待つべきものがございます。さらには都市計画事業としての幹線街路をはじめとする道路行政、或

かかわらず、経済は一向に好転のきざし見え現われずかたて加えて減税にかかる税制改正、企業収益の減退等、市政に及ぼす影響は予測し難く、昭和41年度の当市財政運営はまことに容易ならざるものがあります。私は、この際こそ、市政の健全性を堅持しつつ投資効率の重点化に努め、諸施策について勇氣と英断を以て対処してまいり所存でございます。最後に前年まで積極的に進めてまいりました富士、吉原、鷹岡の二市一町合併問題につきましては、私は特に協議会の会長として、引続き誠心誠意、新市民全体の福祉の増進を基調として互いに大局的見地にたち、互譲の精神に基づいて、理想的な新都府建設に最大限の努力を注いでまいりたいと考えております。本年も健康で十分なる活躍をいただきます郷土のため一層のお力添えを賜わりますようお願い申し上げます



「ななくさがゆ」の由来

正月7日の朝に「ななくさがゆ」をたいて祝う風習は、古くから行なわれたわれわれ日本人の年中行事の一つです。最近是这样した行事もだんだんすたれてきましたが「ななくさがゆ」などは、日本人独特の祝いごとの一つとして、受けついでいきたいものです。

「ななくさがゆ」の風習の始まりは、平安朝時代以前からといわれています。当初は、七草でなくて七つの穀物(いね、むぎ、まめ、あわ、あずき、きび、こむぎ)であつたようで、これらをかゆにたいたものでした。それがいつしか七草(せ

り、なずな、はこべ、ははこぐさ、おおぼこ、すずな、だいこん)などの野草や野菜にかわつたのです。

一説には、前者の七草を正月の供物として供えたあと、7日に後者の七草といつしよに雑炊にしたのが「ななくさがゆ」であるといわれています。

この「ななくさがゆ」を現代的に考えてみると、案外、生活の知恵として、わたしたちの正月の食生活に利用できます。

すなわち、とかく正月は胃腸の負担が過重になり勝ちです。野菜がゆで胃腸に休養を与えることはしごく合理的なことといえます同時に、とかく不足勝ちな野菜をとることによって、ビタミンCの補給もできるというわけです。ですから「ななくさがゆ」の風習は、わたしたちの祖先が長い才月をかけて、直感的に学びつた生活の知恵ともいえることができます。